

1. はじめに

美唄市立西美唄小学校が建つ北海道石狩平野は我が国有数の米どころである。そのほぼ中央に位置する美唄市は、農業を産業の基幹とし、特に昨年度の米の生産量は、北海道内市町村の中で第3位、全国第11位を誇る。本校は、市街地より西方約10kmの西美唄地区に36年前に4校統合によって設立された全校児童数53名（2005年度）の僻地小規模校であり、四方を水田に囲まれている。保護者の多くが稲作農業を営み、本校でも4年生の時より総合的な学習の時間において、「稲作体験学習」に取り組んでいる。

2003年度の1学期、5年生9名は社会科の学習で、食生活の変化により、日本の米の消費量が年々減少していることを知った。市役所農政課を訪ねた際には、全国でも屈指の米どころである美唄市でも生産調整や転作により、作付け面積や農業人口、そして米の収穫量が減っているなど、自分達に身近な稲作農業がとても厳しい状況にあることを学んだ。

「自分達に何かできることはないか！」学級で真剣な議論が続いた。そして「私達の手で日本のお米の消費拡大を目指そう」という強い思いのもと、総合学習『プロジェクト米X（こめっくす）～日本のお米を救え！』が立ち上げられた。

そして、市役所農政課や日本農業賞大賞受賞者、農業試験場等を訪問し様々なことを学んだ結果、米粉を活用した新製品開発に取り組むこととなった。その後、米粉を使用したパンやうどん作りの体験を通して米粉の特徴を把握するとともに、米粉商品を製造販売している方などからアドバイスをいただいた。試行錯誤の結果、「地産地消」と「安心安全」をテーマとした、特色溢れる2つの米粉活用アイデア新製品を完成させ、年度末に開催された「美唄米粉シンポジウム」にて、多くの市民や関係者に対し、発表そして提案を行った。

身近な米をテーマに、地域の実情から日本の農業に視野を広げ、その問題解決に全力を尽くした子どもたち9名は、満足感や充実感に満ち溢れ、次年度の学習に向け、さらに瞳を輝かせていた。

2005年度春、6年生に進級した9名の子どもたちは、前年度の積み残しであった「なぜ、日本は米が余っているにもかかわらず、外国から輸入しているのだろうか？」という課題を切り口として、「米ース（こめーす）をねえ！～身近なお米から世界を見つめよう」の学習を開始。総合的な学習の時間を中心として、国語科・社会科・音楽科・家庭科や学級活動・道徳などの時間において、「小さな学校の大きな挑戦」を合い言葉に、約1年間、地域から日本そして世界へ発信する様々な学習活動に意欲的に取り組んだ。



2. 開発教育の実践

(1) 題材名 「米ース（こめーす）をねえ！～身近なお米から世界を見つめよう」

(2) 期 間 4月中旬～3月中旬

(3) 時 数 合計111時間（総合88、国語科5、社会科5、理科4、音楽科1、家庭科6、学活1、道徳1）

(4) 対 象 美唄市立西美唄小学校6学年9名

(5) 目 標

- ・国際コメ年そして国際協力50周年の2004年、世界の基礎的食料としての「おこめ」の重要性を理解しながら、開発途上国の現状を知り、国際協力の必要性を理解することができる。そして、自分たちでできる活動を考え、実際に行動することができる。

(6) 手立て

- ①インディカ品種の稲を実際に育てながら、世界の米事情について、興味関心意欲を持てるように配慮する。
- ②校外から様々な外部講師（ゲストティーチャー）を招き、専門的な話から、知識やアイデアをいただく。
- ③下記の課題解決学習「3キュウ学習」を基本とし、「問い・思い・願い」が連続するように、子どもたちの主体的な活動を重視する。
- ④総合的な学習の時間のみならず、他の教科や学級活動・道徳などに関連させながら、多様な学習方法や形態で計画的かつ系統的に実施していく。

(7) 開発教育による課題解決学習「3キュウ学習」の取り組み

①「3キュウ学習」の3つのツイキュウ

ア. 追究～自力で「問い・思い・願い」を発見・調査・解決するため、子どもたちが互いに知恵を絞り合い、様々な手段によって学習活動を行う。

イ. 追求～自力で「問い・思い・願い」を発見・調査・解決するため、新聞記事やビデオ、文献、コンピュータ、その他参考となる資料を収集し活用する学習活動を行う。

ウ. 追及～自力で「問い・思い・願い」を発見・調査・解決するため、外部講師（ゲストティーチャー）を校外から招いたり、関係機関を訪ねたり、電話・FAX等を利用して聞き取り等の学習活動を行う。



②「3キュウ学習」の基本的方針

- ア. 子どもたちの五感を最大限に生かし、地域素材の掘り起こしや課題設定をはじめとした子ども主体の学習の継続的实践
- イ. 自分たちの地域を中心とした社会生活に対して、常に「問い・思い・願い」を持ち続け、体験的及び具体的活動により創造的かつ意欲的に追究する子どもを養う計画的実践
- ウ. 個を生かし、子どもたちに驚き・感動・満足・安心・達成・共鳴などを感得させる魅力的実践

③「3キュウ学習」を実践する上での留意点

- ア. あくまでも子どもたちが主体であり、教職員は、子どもたちを支援するサポーター役として存在し、かげの裏方さんに徹する。子どもたちのとりくみが目的から逸脱しないよう、様々なゆさぶりによって、こっそり誘導係もこなす。そして、子どもたちのとりくみは、全て子どもたちのお手柄として、賞賛する。
- イ. 知識注入型及び一斉画一指導の学習を廃し、かつ単なる調べるだけ・発表するだけの学習に陥らぬよう、知的好奇心の誘発などによって、「問い・思い・願い」の連続化を構築する。
- ウ. 『はじめに「子どもたちの問い・思い・願い」ありき』を原点とする。教科書や副読本は、新聞記事やビデオ・パンフレット・写真等の他の資料と同様、一つの資料として活用させる。
- エ. 調査方法や調査場所等が多岐にわたる場合、「共通課題」を子どもたち全員が押さえながら学習活動が行えるよう、配慮する。
- オ. 学習の形態は、子どもたちの希望を可能な限り尊重しながら、個人やグループ、一斉など臨機応変に対応する。

(8) 具体的実践内容 <子どもたちの「問い・思い・願い」が連続する開発教育の実践>

『米ース（こめーす）をねらえ！ 身近なお米から世界を見つめよう』

★4月 総合2時間

なぜ米が余っているにもかかわらず、日本は輸入しているのか？～昨年度の疑問から

【外部講師招聘～農林水産省北海道農政事務所】

- ・ミニマムアクセス米の存在・・・世界の中の日本
- ・「今年は国際コメ年だ！」
- ・「インディカ品種の稲を育ててみないか？・・・それって、何？」



★4月 総合2時間

国際コメ年とは？ 世界のお米は？

- ・「調べてみたい！」「食べてみたい！」「育ててみたい！」
- ・・・調査活動（インターネット、新聞記事、文献、インタビュー、パンフレットなど）



★4月 総合2時間・理科2時間

インディカ品種の稲の栽培に挑戦したい！

【外部講師招聘～農林水産省北海道農政事務所、JA美唄】

- ・インディカ品種の稲の特色は？ 育て方は？
- ・芽出しから収穫までの見通し・・・「寒い北海道で本当に育つのか？」
- ・「外国のお米を育てて、どうするのか？・・・食べるだけではなく、何かに役立てることはできないか？」



★5月 家庭科3時間

世界のお米を食べ比べしよう！～9種類の外国産のお米

- ・「世界のお米を食べてみたい！」
- ・インディカ品種・ジャポニカ品種・ジャバニカ品種の米の特色（味・見た目・におい・粘りけなど）
- ・「もっと詳しく調べてみたい！」（稲の特色、栽培地、栽培方法など）



★5月 社会科5時間

食べ比べした9種類の米を作っている国って、どんな国なのか？

- ・9か国の様子、特色（人口・地理・言語・国旗・産業・経済・観光・人物・文化・歴史・日本との関係・問題点など）・・・一人一ヶ国の調査活動（ガイドブック・インターネット・インタビューなど）
- ・「いろいろな国があつて、おもしろい！」・・・新聞製作（添付資料参照）・発表会

★6月 音楽科1時間

世界の音楽を鑑賞しよう！

- ・「自分達が調べた9か国の音楽が聴けるかも・・・」
- ・「日本の音楽と全然違う！・・・なぜ、国によって、文化に違いがあるのか？」
- ・「外国って、不思議がいっぱい！・・・もっと勉強したい！」

★6月 家庭科3時間

外国の文化に触れてみよう！

【外部講師招聘～中国人留学生（専修大学北海道短期大学）】



- ・中国の代表的な料理に挑戦！・・・餃子づくり
- ・「外国の文化を直接体験できて、楽しかった。勉強になった。」
- ・「外国って、知れば知るほどおもしろい！・・・もっともっと勉強したい！」

★6月 総合2時間

もし世界が100人の村だったら～ワークショップ

【外部講師招聘～北海道開発教育ネットワーク会員】

- ・世界の人口の推移・・・50年前は？ 100年後は？
- ・世界の言語・・・何種類？ どんな言葉？
- ・世界の飢餓の状態・・・先進国と開発途上国の存在 ほか
「途上国のことをもっと詳しく知りたい！」

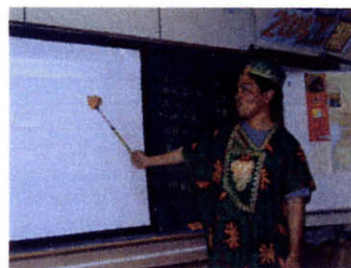


★7月 総合2時間

開発途上国って、どんな国？ JICAってなに？ 青年海外協力隊ってなに？

【外部講師招聘～ケニア派遣青年海外協力隊員OB】

- ・ビデオの映像から、途上国の実態を知ろう・・・「悲惨な状況だ！」「日本と全然違う！」「かわいそう・・・」「なぜ、こんなことになってしまったのか？」
- ・ケニアの現状・JICAの仕事・青年海外協力隊の仕事や隊員の心情・・・「JICA札幌へ行ってみたい！」「青年海外協力隊になってみたい！」「かわいそうという言葉だけで終わらせてはいけない！」「物やお金があれば、幸せと言えるのだろうか？」



★8月 総合2時間

ところで、国際協力って何だろう？

【外部講師招聘～早稲田大学平山郁夫ボランティアセンタースタッフ】

- ・アフガニスタンでのボランティア活動の実際
- ・「国際協力は募金をすればいいというものではない！」「相手の立場に立って、国際協力活動をしよう！」
- ・「まずは、自分の身の回りから見直していこう」「環境を守ることが国際協力につながる」・・・「今、自分達にできることって、何だろう？・・・節水・節電・自然保護などに取り組もう！～各児童の取り組み」



★8月 総合2時間・学活1時間

今、途上国に住んでいる人の話を聞きたい！

【協力依頼～現ネパール派遣青年海外協力隊員、
現スリランカ派遣JICA専門スタッフ、
NGO蓮の会（カンボジア在住スタッフ）】

- ・現在、開発途上国で活躍されている日本人の方にメールで尋ねてみよう！
・・・ 開発途上国の現状やその国の文化（米づくりや米料理）、国際協力の実態等
- ・「途上国のために、頑張っている日本人って、素晴らしい！」
- ・「自分達にも今、途上国のために何か出来ないか？・・・やっぱり募金？ ユニセフの人の話を聞きたい！」

★9月 総合2時間

ユニセフってなに？

【外部講師招聘～日本ユニセフ協会北海道
事務所スタッフ】

- ・ビデオ鑑賞から、ユニセフの歴史や活動を学ぼう！
- ・水瓶の運搬体験、補水塩づくり ほか
- ・「たった100円でできることは、たくさんある」
「かわいそうだからではなく、同じ地球の仲間として助け合うことが大切」「国際協力の必要性を広めることが国際協力活動の第一歩」



★10月 休日希望者参加（札幌）

国際協力フェスタ2004に参加しよう！

- ・外国人とのふれあい、世界の不思議クイズ
- ・NGO活動説明会
- ・「国際協力活動は、一人では長続きしない」「物よりも技術を送ることが重要」「目標を見つけて、楽しく活動しよう！」「一人で一万円よりも一人一円で一万人の募金を目指すべき」「国際協力が必要だという気持ちが必要。強制してはいけない」



★10月 総合2時間・道徳1時間

今、自分たちにできる国際協力は、何か？

- ・話し合い活動・・・既習内容から各自で考えたアイデアを持ち寄り、「活動できること」「活動すべきこと」の絞り込み
- ・活動計画づくり・・・時期、場所、方法、内容、準備など
- ・「途上国の人やJICAの人に相談したい。アドバイスをもらいたい。」

★10月 総合4時間（準備2、当日2）

開発途上国の外国人に、直接アドバイスをいただこう！

【JICA研修員（途上国からの外国人9名）
の学校訪問】



- ・各開発途上国と日本の現状との比較（特に、水と食料事情、ごみ問題について）
- ・自分達で計画している国際協力活動へのアドバイス
- ・「外国とか開発途上国とか、ひとくくりで考えてはいけない。様々な国が存在する」
- ・「自分の国、日本についても、もっとしっかり知らなければならない！」
（学習指導案・・・添付参照）

★10月 総合3時間

JICA職員に、自分たちが考えた国際協力について、相談しよう！

【外部講師招聘～JICA札幌スタッフ】

- ・「2004年は国際協力50周年。10月6日は国際協力の日」「募金だけが国際協力活動ではない」「国際協力活動は、目的をはっきり持って取り組むことが大切」「今までの外部講師の方にも相談してみよう」「複数の活動を組み合わせよう」「自分の好きなことや得意なことを生かそう」「日本のような国にしてあげることが目標ではない！」



★10月 総合2時間・理科2時間

インディカ品種の稲を収穫しよう！

【協力～JA美唄（通年）】

- ・心を込めて栽培してきたインディカ品種の種籾をどのように活用するべきだろうか？・・・
- 「国際協力に関心のある学校に配布して、来年、国際協力の芽を育ててもらおう！」



★10～11月 総合23時間・国語科5時間

自分たちで考えた国際協力活動に取り組もう！

- ・心を込めて、開発途上国の人々のために出来る限りの活動を行おう！

①募金活動（美唄及び札幌市内 計4カ所）・・・

ユニセフ北海道支部にて表彰

②全校バザー開催（不要品販売）

・・・収益金を募金

募金総額 104,592 円（①+②）

③古切手（2,131枚）・使用済みカード（1,374枚）・書き損じ葉書（123枚）収集

・・・交流校「広島市立安東小学校6年生」にも協力依頼（カード 16,247枚）

④「NGO蓮の会」の要望に応える・・・チャリティCDの購入とカンボジアの子どもたちとの文通交流

⑤フェアトレードのお手伝い・・・

ケニアの民芸品販売のお手伝い

⑥広報活動・・・ラジオ番組出演

作文コンクール出展

（日本郵政公社国際ボランティア作文コンクール日本一受賞）



★11月 総合7時間（発表日は休日）

「国際コメ年北海道シンポジウム」で、国際協力の必要性を訴えよう！

【農林水産省北海道事務所主催 札幌STVホールにて】

- ・1000人以上もの聴衆の前で、堂々と「開発途上国の現状」「国際協力の必要性」「自分達の国際協力活動」「私たちの活動に対する協力依頼」を発表、そして主張（台本・・・添付参照）



★12～2月 総合18時間

開発途上国の子どもたちと交流したい！

【JICA札幌協力】

- ・既習事項を生かし、途上国の子どもたちと文化交流しよう！・・・TV会議&ビデオレター&文通&メール交換（カンボジア&パキスタンの子どもたちと共に）
- ・「外国の子どもたちと友達になるって、とっても楽しい！」



- ・日本の文化を再確認・・・外国の文化を学ぶためには、日本文化を知る必要がある！

★2～3月 総合12時間

国際協力の必要性を全国に訴えたい！

- ・交流校「広島市立安東小学校6年生」との話し合い・・・「全国の人々に途上国の実態や国際協力の必要性を訴えるべきだ！」
- ・1年間の活動のまとめとして、「デジカメの動画機能を活用して、共同ビデオを制作しよう！」



・・・TV番組での全国放送（添付ビデオテープ参照）

★3月 総合1時間

活動を振り返り、今後の生活に役立てよう！

- ・「とても楽しく積極的に学ぶことができた」「まとめとして、共同ビデオの制作をしたことは有意義だった」「国際協力の意義を理解して、一生懸命に活動を行ったことに、自信を持っている」「これからも、なんらかの方法で国際協力をしていきたい」「自分が世界に役立つことができ、満足感でいっぱい」「外国の子どもたちと、これからも交流を続けていきたい」など

★その後・・・

あれから、そして現在

※ 春休み、韓国への交流旅行（韓国の子どもたちとの交流・・・3名）

※ 現在、パキスタンとカンボジアの子どもたちと交流継続中

※ 現在、古切手や使用済みカードなどを市内で収集中

※ インディカ品種の種籾は、「新潟県見附市立上北谷小学校」に譲り、現在栽培中



(9) 学習効果と授業の評価

小さな学校の大きな挑戦！ 西美唄という小さな視点から、日本そして世界にまで広げた学習活動。身近なお米を通して、地域から発信した「子どもたちの『問い・思い・願い』」が、社会観や人生観などの「観」を育てることと確信し、「3キュウ学習」として具現化。最も重要視したことは、『問いや思い、願い』がまたさらに『問い・思い・願い』を呼ぶ学習の連続化である。そのために、可能な限り、子どもたちの「問い」などの解決・実現に応えるとともに、子どもたちへの様々な投げかけやゆさぶり、校外から外部講師（ゲストティーチャー）の積極的な招聘等、知的好奇心の誘発を行ってきた。

その結果、飢餓という世界的な問題について、単に興味関心を持つだけではなく、「自分たちの問題」として主体的に捉え、真剣に議論し活動する子どもたちの姿が見られるようになった。その「自分たちの問題」を「自力で精一杯解決していく」ことによって、達成感や満足感等を味わい、子どもたち自らが国際協力の芽を育てあげた。また、「世界に役立つことができる自分」という大きな自信を持って何事も取り組む子どもが増えた。今まで、受け身的な言動が多かった子どもたちだけに、今回の学習の大きな成果と言えよう。

また、「物事に対して、しっかり見つめる目とこだわる心」、そして「自分の意見を持って、主張すること」「自分の目標に向かって努力すること」の大切さを理解できたことも成果の1つであると考える。

今春、9名の子どもたちは卒業し、中学校に進学したが、現在も収集活動などの国際協力活動に励んでいる。そして、カンボジアと



パキスタンの子どもたちとの交流も行われている。子どもたちの活動は、きっとこれからも続くであろう。

今後も、国際協力活動に対する意欲を継続するとともに、地球市民の一員としての自覚をさらに深め、行動力および実践力を身に付けていくことであろう。数年後、そして社会人となっても、生涯にわたって、この1年間の学習を生かしながら、国際協力活動に対して瞳を輝かせ続けてくれることを願っている。